

助成事業完了報告書(抜粋)

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月3日

事業ID:2023007653

事業名:海と日本PROJECT in 山口県
(海と日本2023)

団体名:一般社団法人海と日本
プロジェクトinやまぐち

代表者名:代表者 林 達男 印

TEL:0834-31-9300

事業完了日:2024年3月31日

1.事業内容

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.海への興味・関心喚起を目的とした取り組み
(1)オリジナルイベントの実施
a.時期:2023年7月～9月
b.場所:山口県
c.参加者:小学生 20名
d.内容:フグの袋競り体験、目利き体験、フグの放流、商品づくり 等



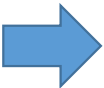
(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.海への興味・関心喚起を目的とした取り組み
(1)オリジナルイベントの実施
a.時期:2023年7月～9月
b.場所:山口県
c.参加者:小学生 **24**名
d.内容:フグの袋競り体験、目利き体験、フグの放流、商品づくり 等

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)海応援動画等制作
a.時期:通年
b.内容:海応援動画25～35本、プロジェクト訴求動画3本



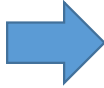
(2)事業内容の実施(完了)状況

(2)海応援動画等制作
a.時期:通年
b.内容:海応援動画**26**本、プロジェクト訴求動画3本

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(3)ニュースサイト運営
a.時期:通年
b.内容:海に関する50の取り組みをニュース記事で発信



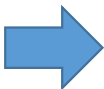
(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)ニュースサイト運営
a.時期:通年
b.内容:海に関する**125**の取り組みをニュース記事で発信

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(4)SNSの運営
a.時期:通年
b.内容:県内の海に関する取り組みを発信するSNSの運営



(2)事業内容の実施(完了)状況

(4)SNSの運営
a.時期:通年
b.内容:県内の海に関する取り組みを発信するSNSの運営

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1) 助成契約書記載の目標

1. 海への興味・関心喚起を目的とした取り組み

(1) 地域の海に関するイベントやアクティビティー等の2分程度の紹介動画を35本、もしくは25本以上総尺4,500秒以上制作する。

(2) 「海と体験する機会」「海ごみ対策」等をテーマに、15秒動画を各3本制作する。

(3) 海と日本プロジェクトにて全国展開する事業(SOCIAL INNOVATION NEWS、海のごちそうフェスティバル)と連携する。

(4) 公式サイトにて地域の海に関するニュースを50本発信し、PV数は2022年度の1.1倍以上を達成する。また、Twitter等のSNSを運用する。

(5) 海と日本プロジェクトの推進パートナーとの連携による賛同活動を伴う団体を増やし、オリジナルイベントの成果をエリア内で広く拡散する施策を実施する。

(6) 地域の海が持つ特徴を子供たちが主体的に学ぶことができるオリジナルイベントを100名以上の応募者を集めて1回実施する。

(2) 目標の達成状況

1. 海への興味・関心喚起を目的とした取り組み

(1) 地域の海に関するイベントやアクティビティー等の2分～10分程度の紹介動画を26本、総尺10,138秒制作した。

(2) 「海と体験する機会」「海ごみ対策」等をテーマに、15秒動画を各3本制作した。

(3) 海と日本プロジェクトにて全国展開する事業(SOCIAL INNOVATION NEWS、海のごちそうフェスティバル)と連携した。

(4) 公式サイトにて地域の海に関するニュースを125本発信し、PV数は2022年度の1.1倍以上を達成した。また、Twitter等のSNSを運用した。

(5) 海と日本プロジェクトの推進パートナーとの連携による賛同活動を伴う団体を増やし、オリジナルイベントの成果をエリア内で広く拡散する施策を実施した。

(6) 地域の海が持つ特徴を子供たちが主体的に学ぶことができるオリジナルイベントを81名の応募者を集めて1回実施した。

3. 事業実施によって得られた成果

山口県、山口県教育委員会、山口県内全自治体(13市6町)など20人を超える組織で実行委員会を組織し、全県的に海への関心を高め、行動を起こすムーブメントが一層醸成出来たと思う。自治体等の積極的な協力もいただき、全事業の成功に至ったと思われる。

山口県教育委員会の後援で実施した「フクワク調査隊～県魚フグの現状と未来～」は、県魚として馴染みの深いトラフグについて、その生態や延縄漁、食文化、漁獲量の減少、生息域の変化などを学んだ。フグの捌き方の見学、袋セリの体験、延縄漁船でのクルーズといった現場ならではの体験を行ったことに加えて、フグの変異種の出現・海の変化など海の現状について各専門家から教わることで学びを深めた。未来につなげるために、オリジナル商品を開発した。また、近年トラフグが豊漁となっている福島県の子どもたちとオンラインでの交流も図った。県内の小学生や観光地に新聞特別号(パノラマ版)を配布することを通して、今年度及び来年度中は県内外に更なる情報発信が出来たと考える。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

1.海への興味・関心喚起を目的とした取り組みでは、コロナ明けで無料且つ体験型のイベントが一気に復活したため参加者の興味が他方面に広がり、その結果海に関するイベントへの関心が多少薄れていると思われる。「海と日本プロジェクト」としてオリジナルイベント等の実体験を伴う行事を積極的に行っているが、参加人数には限りがあり、海岸清掃を除けば絶対的な人数増にはつながりにくい現状がある。

日本財団の調査結果からも「海への訪問頻度」と「海への愛着」の高さは比例しているため、「海に行く機会」を増やすための情報発信やコンテンツを強化し取り組んでいく。

具体的には、推進パートナー等との連携事例やイベント等において、海に関する体験活動をしっかり行っていく。オリジナルイベントに関しては、学びの共有方法として、可能なものは動画等で事前にオンラインで学べるようにしたり、事後も復習的な動画を提供するなどの手法を新たに取り入れていく。WEBを積極的に活用しながら、イベント参加・不参加に関わらず安心安全な状況で海での体験や疑似体験を行う。また学びを深くするために、これまでのオリジナルイベント参加者には海の学びサポーターとしての参加を募るなど、「海と日本プロジェクト」フェローの育成を目指していく。

これまで海と日本プロジェクトinやまぐちでは、さまざまな活動で積極的に海の問題や魅力を伝えてきた。それはフグやケンサキカ、ニホンアワサンゴといった山口県を代表する海洋資源を通してであったりしたが、まだまだ県民一人ひとりが自分事として捉えるまでには至っていない。静かに進行する海の問題、また新たな動きについても、これまでの蓄積をさらに深掘りし、関係者とのネットワークを効果的に活用し、県民全体が海への関心を高め、海が持つ多様性と恩恵を理解し、行動を促すムーブメントを起こすことを目指したい。

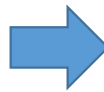
なお、海応援動画26本に関しては、世帯平均視聴率5.5%、視聴者数のべ3,758,101人で、放送は朝と夕方の自社制作枠を中心に行った。

ニュースサイトの運営については、多くのニュースをアップしたことにより目標を達成できたが、SNSの運営については、2024年1月末までに53,154エンゲージメントの獲得にとどまった。より更新頻度を上げて更なるアクセスを目指したい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

1. 海への興味・関心喚起を目的とした取り組み
- (1)海に関するイベント応援動画 25~35本
- (2)プロジェクト訴求動画 3本
- (3)公式サイトにおける掲載記事 50本
- (4)オリジナルイベントのチラシ、ポスター
- (5)報告書



(2)事業完了時の成果物名称

1. 海への興味・関心喚起を目的とした取り組み
- (1)海に関するイベント応援動画 **26本**
- (2)プロジェクト訴求動画 3本
- (3)公式サイトにおける掲載記事 **125本**
- (4)オリジナルイベントのチラシ**1,000枚**、ポスター**50枚**
- (5)報告書